

「健康経営」

滋賀銀行 取締役東京支店長 小八木 一男



毎秋恒例の「ウォーキングラリー」が10月末日で終了しました。日頃の運動不足の解消と健康づくりを目的に当行健康保険組合が1995年からはじめたもので、1日1万歩、2カ月の運動期間中に計60万歩を目指します。各支店や部署ごとに参加希望者を募り、配布された万歩計で日足管理。目標達成すれば参加者自身の健康増進にとどまらず、健康グッズも頂けるとあってか毎年200名を超える役員が参加しています。

さて、昨今、少子高齢化で労働力人口が減少に向かうなか、社員が長く健康で働き続ける環境づくり、いわゆる「健康経営」に高い関心が寄せられています。IT（情報技術）活用による社員の健康診断結果と勤怠情報などの一元管理や、社員が健康情報をインターネットで

学習するとポイントを与えて給与にも反映するなど、企業の取り組みもさまざまです。

その背景には、社員の長期疾病の予防や企業の医療費負担の軽減等もありますが、むしろ今日の生活習慣病の増加やメンタルヘルス問題など、人に関わる事象が企業の大小規模を問わず、経営課題として深刻さを増しているからです。

企業の経営資源とされる「ヒト、モノ、カネ」の中でも企業を支える屋台骨は、やはり「ヒト（人“財”）」です。すべての企業活動は社員の心身の健康のうえに成り立つという原点に立ち返り、積極的に「健康経営」に取り組むことで、社員のモチベーションアップや生産性向上、組織の活性化など、長期的な企業価値の向上に結びつけていきたいと考えます。

しがぎん TOPICS

「未来(あす)リーと」の拠出金133万円を「レイクス・スポーツファンド」に贈呈

当行は、10月4日、「しがぎん」スポーツ応援定期 未来(あす)リーと」からの拠出金133万円を、「レイクス・スポーツファンド」※に贈呈しました。

本商品は、お客さまにお預け入れいただいた定期預金の7月末時点残高の0.005%相当額を、公益財団法人滋賀レイクスターズが運営する「レイクス・スポーツファンド」へ寄付するものです。2020年の東京オリンピック・パラリンピック、24年の滋賀県での国体開催を控え、滋賀県内のスポーツ振興を応援するとともに、地域スポーツ振興による地域活性化の後押しを行いたいとの思いから商品を開発し、14年12月に取り扱いを開始しました。これまでの累計拠出金額は216万5千円となります。

この日の贈呈式では、滋賀レイクスターズに所属する陸上・棒高跳びの我孫子智美選手、ウインドサーフィンの伊勢田愛選手、パラトライアスロンの宇田秀生選手、事務局長の釜淵俊彦氏が出席。

今井専務から我孫子選手へ目録が手渡されました。

当行は、今後もお客さまとともに、滋賀県ゆかりの未来のアスリートを応援してまいります。



贈呈式後の記念撮影で、左から宇田秀生選手、我孫子智美選手、今井専務、伊勢田愛選手、北川営業統轄部長

※「レイクス・スポーツファンド」/「滋賀のスポーツを応援!」を合言葉に、トップアスリート支援や地域スポーツのさらなる活性化を目指し、公益財団法人滋賀レイクスターズが運営するファンド。スポーツ助成金の運営、スポーツ情報誌「レイクスマガジン」発行、スポーツ(選手)による地域貢献・社会活動、スクールの運営、体育施設の管理・運営等の活動を行っている。